

# 安全衛生報誌

安衛委 No101  
平成22年4月26日  
安全衛生推進委員会

## 平成二十二年度 安全大会

今年の安全大会が、四月二十三日大越公民館で開催されました。

社長より、県内の経済情勢は依然として厳しく、一部の業種が穏やかに持ち直しているようにみうけられますが、建設業はコンクリートから人へと掲げた鳩山政権により公共事業が過去最大の下げ幅となり、公共投資の削減によって経営が苦況に置かれております。企業経営は、安全第一をもつとくに労働災害の壊滅に向け労使協力して、安全なそして安心の職場作りに努力して行かなければなりません。昨年の死亡災害別で交通事故が八人で、ついで墜落・転落が五人と多いため、今年の安全衛生パトロール時に墜落・転落及び重機による重大災害を起さないように点検させ、明るい快適な職場を形成すると挨拶がありました。



勤続表彰 三十年（安瀬勝則）二十年（渡辺一夫、坪井正孝、国分千代子）十年（宗像孝和、石井輝子、石井正春）無事故無違反表彰者、四十年（久保田芳子、鈴木ユキ、酒井高志）十年（坪井英樹、国分千代子）安全標語表彰、最優秀賞、（決めた事、続ける事を心がけ、守る努力が無災害）渡辺珠

代、優秀賞（毎日の慣れた作業毎日変わる危険箇所）国分雄浩、佳作（気づいたあなたが責任者毎日変わる 危険箇所）柏原利美（手を抜くな 慣れた作業も 指差確認）会田貞二が選ばれ表彰されました。勤続表彰の皆さん会社に長い間貢献して頂き有難うございます。引き続きお願い致します。現場体験談では、樽井第二課長が一・吊り荷の下に入らない事二・作業手順を省略しない事三・法面勾配は土質に応じて四・現場内に自動車が進んできてきた事、何れも大惨事には至らなかったが、間違えれば死亡災害が発生していた事を話してくれました。講演では、（有）エス・エーサーピスセンターの佐藤孝夫様が、安全第一及びミドリ十字の由来について、アメリカのゲリー社長があまりにも災害が多いので、「安全第一・品質第二・生産第三」と会社の基本方針としたら、災害が減り生産が向上したことから、各社で使用するようになった。資料を見ながら、危険性と予知能力について全員で考えたり、現地KYの例を使って代表者三名が、実演を行い会場から三名に対して

拍手が送られました。人間には五感があり、視覚七十五、聴覚十三、触覚七、嗅覚三、味覚二となっており、目からの吸収、目で確認を行って下さい。全員で平衡バランスを行い、吸収することの多い講演を終了しました（参考）目を閉じて両手を広げ片足をあげて、三十秒（三十）三十秒（九歳）二十五秒（四十）四十九秒（二十秒（五十）五十九歳）十五秒（六十歳以上）各自現場や自宅で試してみてください。

